



| 根くびれ病 | |
|--|--|
|  | <p>発生時期 6～10月</p> <p>症状・原因 ① 苗立枯れ病を引き起こすアファノマイセス菌による症状。 ② 生育初期に土壌が乾きにくいと発生しやすい。初生皮層をえさに繁殖する菌で乾燥すると発病しない。</p> <p>対策 ① 播種時に殺菌剤を土壌混和する。 ② 排水を良くして発病を抑える。 ③ 消石灰を多く施用しすぎないこと。</p> |
| べと病 | |
|  | <p>発生時期 平均気温が10℃前後で降雨が多いとき</p> <p>症状・原因 ① 菌が表皮内部に侵入して病斑が拡大する。 ② 病徴の出たところには子葉や葉が抽根部に付着していることが多い。子葉の裏に白い胞子が付着し根部の肥大とともに葉が抽根部の肌が付着して発病する。</p> <p>対策 ① べと病に効果のある殺菌剤を播種後20～40日頃に散布する。</p> |
| 菌核病 | |
|  | <p>発生時期 20℃前後の春、秋に多い</p> <p>症状・原因 ① 糸状菌による水媒伝染病害。悪臭はしない。 ② 綿状の菌糸が発生し、後に黒い不定形の菌核を形成する。 ③ 好気性菌のため畑が湿っているときに地表に菌糸を伸ばし、病気が拡大する。</p> <p>対策 ① 菌核が地表面にあると発病しやすいので発病株は持ち出すか地中深く埋める。</p> |
| 黒アザ症 | |
|  | <p>発生時期 周年</p> <p>症状・原因 ① ダイコンの肌に黒いタール状の物質が付着する。 ② 生育後半の天気が弱日照多湿条件で発生しやすい。 ③ ダイコンの表皮には影響が無くタール状の物質が付着しているだけである。枯れたダイコンや雑草の葉がかびて付着する。</p> <p>対策 ① 子葉や初期の本葉が腐敗して付着するので生育中期にリゾクトニア菌やアルタナリア菌に効果のある殺菌剤を散布して枯葉の腐敗を防ぐ。</p> |
| ス入り | |
|  | <p>発生時期 周年</p> <p>症状・原因 ① 弱日照や高温で光合成が弱い条件で肥大した場合に発生が激しくなる。 ② 収穫期に乾燥してくると空隙が拡大する。</p> <p>対策 ① 肥料バランスを良くする。生育後半の肥料不足はス入りが早くなるため追肥する。収穫が遅れるほどス入りは拡大するので早めに収穫する。</p> |

～ 症状・原因・対策 ～

| イオウ病 | |
|---|---|
|  | <p>発生時期 6月～9月、春まきトンネル栽培</p> <p>症状・原因 ① フザリウム属菌による病気。 ② 播種後1ヶ月間の地温が25℃以上のときに多発する。</p> <p>対策 ① 完全抵抗性品種は無いが発生の少ない品種を選ぶ。 ② 発病している畑は早春や秋遅く播種する栽培に変える。 ③ 土壌消毒も処理期間を長く取り、地中深くまでガスが回るようにする。</p> |
| バーテシリウム黒点病 | |
|  | <p>発生時期 周年</p> <p>症状・原因 ① 冷涼な気候を好み、発病適温は20～24℃である。土壌湿度はやや低い方を好み、湛水状態には少ない。 ② 土壌は酸性側よりもアルカリ性側で発生が多くなる。</p> <p>対策 ① 40cm以上深いところでも生息し発病させるため、土中深くまで消毒する。 ② 病原菌の多い畑は栽培しない。</p> |
| 円形褐斑症 | |
|  | <p>発生時期 秋蒔き冬穫り栽培で発生が多い。</p> <p>症状・原因 ① 糸状菌のアクレモニウム菌による土壌伝染病害。 ② 円形の病斑で指で押したような凹み状に腐敗する。 ③ 土壌が乾燥してくると病気の進行が止まり表皮が再生されてくぼみのみになる。</p> <p>対策 ① 土壌消毒を行うか連作を避ける。 ② 早めに施肥して耕運し、土中の有機物の分解促進をし、排水の良い畑にする。 ③ 対応農薬は無いが亀裂褐変症の予防をしておくこと軽減する。</p> |
| ネコブ病 | |
|  | <p>発生時期 6～8月</p> <p>症状・原因 ① ダイコンはネコブ病に強い品種が多いが中に弱い品種がある。 ② 根部にタテ割れが入り、内側からコブが出てくる。</p> <p>対策 ① ネコブに強い品種を選ぶ。 ② ネビジン粉剤、フロンサイド粉剤などを土壌混和する。</p> |
| 黒斑病 | |
|  | <p>発生時期 周年 特にトンネル、ハウス栽培で多い。</p> <p>症状・原因 ① アルタナリア菌による空気・水媒伝染病害。 ② トンネル、ハウス栽培など夜温が低くなり、肩に凍害を受けて組織がもろくなったり、枯葉が肌が付着して多湿になると菌が繁殖して肌荒れを起こす。露地栽培でも弱日照多湿で発生する。</p> <p>対策 ① ハウス、トンネル栽培では防寒と換気に注意する。 ② 軟腐病、白さび病に効果のあるバリダシン液剤、アミスター20フロアブルなどを散布して予防する。</p> |

※ 農薬を使用する場合は、地域、出荷団体もしくは出荷先の農薬使用基準に従って下さい。